

30周年記念誌の発刊に当たって

電気化学協会九州支部平成2年度支部長

三菱化成株式会社 専務取締役 黒崎工場長

高 橋 敏 郎

電気化学協会九州支部は、昭和36年2月24日に関西支部から九州七県と山口県とが一緒になり分離独立してから、早くも30年を数えます。その間、講演会、見学会、講習会を中心に活動を行って参りました。その中でも、毎年秋に行われ最も力を入れてきた工業物理化学講習会は、支部発足当初は化学熱力学や固体化学、それに触媒、分離操作等の基礎的、基本的な講義から出発しましたが、昭和40年代後半から環境化学、省資源、省エネルギーを、そして五十年代後半から気体透過膜、電導性高分子、構造用セラミック、化合物半導体、センサー等有機、無機系の機能性材料と、その時代の変化、要請に合わせたテーマと取り組んで参りました。その活動状況の一端は、この小冊子に抜粋されている会誌「電気化学」の巻頭言集にも、伺い知る事が出来ます。更に、最近特に話題となっているのが地球環境の問題であります。即ち、CO₂、CH₄等による地球温暖化、SO_x、NO_x等による酸性雨、それにフロンによるオゾン層破壊等であります。我々の、又後々の世代の人々の快適な生活を持続させるために、これらの問題に前向きに取り組む方策を考えねばならない時期に来て居ります。恰度、当支部発足30周年を迎えることでもあり、その記念行事として福岡県、九州通産局、福岡県国際交流センターとの共催で福岡国際シンポジウム'90「地球環境とエネルギー」を開催しましたところ、内外から約500名にも及ぶ参加を戴き、盛会裏に終えることが出来ました。これも当支部発展のために御指導戴いた諸先輩をはじめ、支部活動を支えて戴いている会員の方々の努力の賜と深く感謝する次第です。ここに支部活動の節目として30年を記念する小冊子を作成しましたので御案内申し上げますと共に、今後益々の支部活動の展開に、皆様方の御協力、御尽力をお願い申し上げご挨拶とします。